

都道府県別賞一等

見えないつながり

兵庫県 川西市立緑台中学校 一学年

坂本 幸規

「おばあちゃんが東京旅行のお代金、お支払いするからね。楽しんできてね。」三年前の冬、家族四人で東京デイズニールランドへ行く計画を立てていた僕たち家族に祖母が言ってくれた言葉です。三つ上の姉が春から中学生になるので、家族全員でゆっくりと出かけられる機会がなくなるのではないかと両親が考え、旅行を企画していたのです。

その前年、祖母は三週間ほど病院に入院し、祖父や母が毎日のようにお見舞いに行っていました。その時は詳しく知らなかったが、大腸にガンが見つかり手術をしたのだと母から後で聞きました。姉や僕も学校が休みの日には、母と一緒にお見舞いに行ったのを覚えています。

祖母は、終身医療のついた生命保険に入っていたので、入院、手術の際の給付金が後から支払われたそうです。そのお金の一部を僕たちの家族旅行の代金にあててくれようとして、声をかけてくれたのです。祖母は、入院、手術時だけでなく、前後の検査通院などにも付き添ってくれた母に対して感謝の気持ちを伝えなかったそうです。また、家の用事や子育てで忙しい中、自分の病気のために母の時間を使わせてしまったことを申し訳なく思っていたそうです。母からすると、子どもとしてあたりまえのことをしただけだからと、旅行代金を支払ってもらったことをためらったそうだが、遠慮すると祖母がずっと気を使ったままになってしまいうから、と有難くお願いすることになったそうです。

母はその時に、保険に入るのは周りの人に対する愛情なのだ実感し、それはたくさんの同じ考えの人とつながり合って支えあっていることに気づかされたそうです。僕たちは自分に、もしものことがあった時に、周囲に心配や迷惑をかける。せめてお金のことでだけでも不安にさせないようにしたいと願うのは、誰しもが当然であろう。しかし、保険というものは、たった一人が加入しても成り立つものではない。自分たちの知らない人や会社など、多くの加入者によって支えられているのです。ピンチの時はその人たちに助けられ、また気づかないうちに、自分たちが誰かを支える番になる時もあるのです。母の話を聞く前は、まだ自分には早すぎる話だと思っていました。が、日常生活を振り返った時に同様のことが言えると思えました。僕は毎日、家族や友達など、いろんな人たちに励ましてもらったり、元気をもらったり、助けてもらって生活しています。あたりまえだと思っている暮らしが、誰かの支えがあってできること

第59回中学生作文コンクール

に感謝したいです。今回それに気づきを得ることができてよかったです。